

都心にふさわしい図書館を考える懇談会 平成26年度第2回会議

議事録（概要版）

日時：平成26年9月11日（木）午後1時開会

場所：札幌市中央図書館 3階 研修室A

1. 開会

2. 議事

（1）資料説明

●事務局（根尾企画担当係長）

・配付資料は、資料1が座席表、資料2がこれまでの検討経過概要、資料3が市民交流複合施設管理運営基本計画、資料4が前回の懇談会の意見集約。

・資料2と3は、前回の配布資料を修正したもの。資料4は、前回の懇談会の意見集約と、図書館の考え方を載せたもの。

・資料4を説明。

・行政支援・行政資料として、議員や行政職員の調査・研究を支援する機能を持つべき、市役所2階の市政刊行物センターと連携し市民が使いやすい形に整理し直すべき、情報の入り口として行政資料を配架し、本庁舎などに誘導できる形を検討すべき、縦割りではなく横断的な情報を入手できることが大切、図書館を入り口として必要な情報にネットワークできるのが大切といったご意見をいただいたところ。

・それに対する図書館側の考え方としては、都心にふさわしい図書館は市民を対象とすることを一義的に考えているが、それに加え、議員や行政職員の政策立案のための調査研究に大いに役立つものとして、市民だけでなく議員や行政職員にも広く機能をPRしたい。行政資料については、縦割りではなく、図書館資料と共に横断的に整理・展示し、市民に提供したいということ。

・ホール・アートセンターとの連携については、アートセンターに美術系の資料を配架したらどうか、デジタルコンテンツは、アートセンターと共同でアーカイブするなど、アートセンターと一緒にソフト面を考えるのが有効である、空間づくりを十分に研究すべきであるという意見をいただいたところ。

・これについては、ホールやアートセンターなどの所管部署と引き続き連携について協議を重ねていきたいと考える。

・市民参加については、事業全体に市民やNPOが参加できるようにすべき、オープニング

イベントについての市民参加型を検討すべきというご意見をいただいたところ。また、デジタルコンテンツについても、市民にも資料提供を呼びかけ、編集に際しても市民が参加できるようにすべき、動画や音声も必要、業者に丸投げすることなく、市民・地元と連携して作るべきだというご意見をいただいたところ。

- ・これについては、事業内容は、市民参加型のものも検討したい。デジタルコンテンツについても、動画・音声など種類に関わらず、広く資料・情報提供を市民に呼び掛け、編集方法を検討したいと考えている。

- ・展示は、タイムリーな展示と時間をかけて準備する展示と両方があると良い、季節ごとなどに展示内容を変えていくべきであるという意見をいただいたところ。

- ・これについては、タイムリーな時事、市民のニーズに対応した展示となるよう、内容を検討したいと考えている。

- ・その他として、全国の図書館とのネットワークの前に、地元の道立図書館や市役所内の図書室など地域のネットワークを意識すべきとの意見については、道立・他市町村立図書館を含め全国の図書館と必要な連携を図りたい、連携を強めて参りたいと考えている。

- ・また、これからは偶然の出会いや会話から発想がうまれる時代なので会話が生まれる図書館であって欲しい、司書はカウンターから出てフロアを歩いている動的なイメージ、コワーキングスペースが交流の場として機能するためには何らかの「しかけ」が必要というご意見をいただいたところ。

- ・図書館の環境としては、無線 LAN 環境や電源、ミーティングルームなどハード面を整えるだけではなく、コワーキングスペースやカフェの効果的な活用方法について引き続き検討したいと考えている。

- ・周囲と仕切られた静寂空間ではパソコンが使用できるのか、パソコンの音にも配慮しなければならないのではないかというご意見については、パソコンの利用可否も含め、静寂空間の利用方法につきましては引き続き検討したいと考えている。

- ・以上が、前回の懇談会の意見とそれに対する図書館側の考え方。

- ・これらを踏まえ、資料2と資料3を修正。

- ・資料2について、課題解決型の図書館だということを全面的に打ち出した。また、主な対象者別に課題を例示した。

- ・課題解決型図書館として、レファレンス機能がより発揮される「仕事や暮らしに役立つ情報」を最も重要な役割と考え、「札幌の魅力発信」と順番を入れ替えて、最初に記載した。

- ・資料4の反映としては、行政資料の配架を明確にしたこと、ニーズに対応したタイムリーな情報提供に努めること、デジタルコンテンツ編集の対象には映像・音声も含めること、編集作業には市民も参加できるように工夫すること、静かな環境で調べものができる閲覧席があること、ホール・アートセンター施設をセミナー会場として活用すること、アートセンターのオープンスタジオも閲覧スペースとして利用すること、アートセンター内に図書館資料の配架を検討することを記載。

(2) 検討

●河村座長

前回の皆さんからのご意見もとに、図書館の考え方ということで修正を加えてもらった。私も皆さん同様、今資料をいただいたばかり。説明を受けながら、都心にふさわしい図書館というものの位置づけというものが明確になったかと思う。

資料の修正内容は、

- ・「仕事や暮らしに関する情報提供」を一番目に持ってきた。
 - ・暮らしに役立つ資料・情報提供というところに行政資料が入った。
 - ・札幌の魅力発信は、菊地委員からお話があったように、映像・動画も取り入れた。
 - ・知的空間の創出では、静かな空間と話ができる空間には区切りが必要とした。
- ということだった。

前回皆さんから提案された意見についての修正がされていると思うが、資料4に沿って、再度ご意見をいただきたい。

また、後ほど事務局側から説明があると思うが、9月22日に、市役所本庁舎で市民交流複合施設全体の検討会議がある。今日検討いただいた内容を全体会議の方に提出して話して、3回目の懇談会には、その全体会議での内容を皆さんにフィードバックしてご意見をいただくような形になろうかと思う。

まず、1番目の行政支援・行政資料について。行政資料も提供すると文言が入り、図書館が入口として必要な情報を考えて入れていくという説明だった。

●細谷委員

良くなったと思う。行政支援サービスを打ち出しても、すぐに札幌市役所の職員や議員が仕事に活用するようになるわけではなく、まずは個人利用して、仕事でも使えると気づくのではないか。そのためにも、理念として打ち出すことはすごく大事。

また、今回、事業内容の先頭に仕事や暮らしに関する情報提供を持ってきて、課題解決型図書館だと打ち出したことで、貸出ししないことに対する理解が得やすくなったと思う。

●河村座長

行政資料は、細谷委員の思ったような修正が加わったということで、ご意見をいただいた。

●細谷委員

お金の扱いをどうするのかを確認したい。前売券やチケットの類は、情報は提供するけれども、「購入は自分で」となるのか。

バスのチケットや地元の写真を使った絵はがきを作って売っている図書館もある。デジタルコンテンツで昔の札幌の写真を見て、絵はがきか何かで欲しいというようなニーズも出てくると思う。

●事務局（千葉調整担当課長）

コンサートのチケットは、我々ではなく、アートセンター側で販売を考えている様子。（管

理運営基本計画 29 ページ上部)

図書館資料をスーベニアショップのような感じで販売するという点は、オープンまでまだ時間があるので、ビジネスパーソン、観光客などの関心を惹くため、いろいろなアイデアを練っていききたい。

●河村座長

都心にふさわしい図書館は、観光客・来訪者・ビジネスパーソンなど大人をターゲットにした新しいコンセプトの図書館。従来の図書館とは違ったサービスの仕方もあると思う。

また、お金を生む図書館という考え。図書館がというのではなくても、施設の一部で、今おっしゃったようなことはあっても良いのかと思う。それは、連携の中でのことだと思う。

●猪熊委員

アートセンターに来るアーティストにもすごく刺激的な情報。中央図書館への入口になると思うので、そういう連携は大切と思う。

●河村座長

課題解決のイメージは、寄ってみたらそこからいろんなことに発展していく、広がっていく、困ったときに解決策が出てくるというもの。図書館というイメージじゃなくても良いのではないか。図書館という概念を大きく変えた発想でできあがっていると考えている。

●豊田委員

2階で今札幌国際芸術祭との連携で、展示をやっている。選書の仕方がすごく良いと思って見ていたが、図書館の職員が本を選んだのか。

●江本中央図書館長

坂本龍一氏が選んだ。

●豊田委員

本の選び方が秀逸。なかなか目配りの仕方が素晴らしい。あのような本とアートの連携が都心にふさわしい図書館でやっていけたら良い。

本の貸出は、ディスプレイ期間の後となっているが、市民は理解してくれているか。

また、今回のリニューアルで、2階は貸出できない本が増えたと思われるが。

●綿貫職員

貸出できない本の数は変わってはおらず、むしろ貸出できるものを増やした。

●豊田委員

貸出できないものが増えたような印象を持った。

●綿貫職員

今まで奥の方にあったものが前に出てきたためと思われる。

●豊田委員

展示しているものについては、予約はできないのか。

●綿貫職員

一点物が多かったなので、展示場所に置いておきたかった。予約は展示後にできるとした。

特にその件について苦情はなかった。

●細谷委員

良くわからないが、複本がないものは、展示期間中は予約貸出はしないということか。

●綿貫職員

展示の仕方にもよる。展示ケースに入っている本は貸出していない。1階図書室の展示コーナーにある本については、貸出可能としている。

●千葉調査担当課長

貸出できないものが増えたという印象は、2・3門が1階に下りたためではないか。2・3門は貸出が多く、2階に残っている郷土と参考図書は動きが少ないので、そのためかと。

●細谷委員

1階から2階に上がったのは。

●千葉調査担当課長

1階から上がってきたものはない。地下書庫から2階に上げたものはある。

●細谷委員

2門も3門も全部入ったのか。2階から1階に下ろすときに数を減らしたのか。

●千葉調査担当課長

減らした。

●豊田委員

貸出の部分が、やっぱり一番不満が出てくるかと思って、ちょっと気にしていた。

●河村座長

前回は話になったかと思うが、都心にふさわしい図書館のコンセプトは、今までの図書館行政の流れとは変わったものを作ろうという発想。貸出をしないということは、なぜ貸出しをしないのかをきちっと説明できれば良い。要は、新しい本を置いて、そこで見てもらって、欲しい人はその本がどこに行くと手に入るか、借りたければ中央図書館などで借りてほしいと言えれば良い。

もうちょっと発展的なことを言うと、お金を生む図書館というか、お金をかけない図書館。雑誌スポンサー制というものがあるように、図書スポンサー制みたいなものを勝手に考えている。実際に図書館が採用するかどうかは別として、新しい本が出たら、本屋さんに図書館内で展示してもらおう。それは貸出さないけども、丸善に行ったら買えますとか、紀伊國屋提供の新刊ですと知らせるとか。そういう形も今後の運用としてはあるのかなど。

そうすると、図書館と書店との連携となり、ただの貸本屋にすぎない図書館と言われることもない。貸出ししないということが、悪いイメージを持たれるのではなくて、ひとつの新しいサービスの形態として私はとらえている。中央館・地区館といった従来の図書館サービスは何ら変わらず、新しいもの・新しい発想の図書館が大通りにできるととらえている。

●細谷委員

一応納得しているが、図書館協議会でこの件は通っているのか。

●千葉調整担当課長

文学や児童書はそれぞれ地区の図書館で充実させている部分であるため、都心の特性を考え、敢えて都心にふさわしい図書館では力点を置かない。また、課題解決型のレファレンスライブラリーの運営なので、蔵書については原則貸出しないということは、図書館協議会でも説明し、理解をいただいているところ。

●河村座長

市民参加については、菊地先生はご意見はいかがですか。動画や音声も必要だと、先生から前回ご意見いただいたところですが、このような形で取り入れられています。

●菊地委員

大丈夫です。結構です。

●河村座長

展示の部分は、時事、市民ニーズに対応した展示となるようにとなっている。

その他の部分は、当然都心の図書館だけではどうにもならないこともあるので、道立図書館、市町村図書館、中央館・地区館との連携が必要ということ。

また、コワーキングスペースとカフェの効果的な活用法の検討ということだが、図書館の中にアートセンターが入っているというのが私たちのイメージ。図書館という言葉が良いのかわからないが、今までにない図書館運営が可能なのかと思う。

●菊地委員

全体で、ひとつ提案がある。これから、ホール・アートセンターと協議していくのだろうが、おそらくアートセンターにも懇談会のような組織があると思われる。

アートセンター側の座長とこちらの河村座長とが入って、一体となって協議・運営するための機関が検討されていくと良い。それにより、お互い理解しながら新しい理念というものが生まれていくのではないか。芸術家の皆さんと図書館が交錯しながら、新しい発想の図書館として具体化していくことを提案する。

●河村座長

お金がかからない図書館というのか、ずっと思っているのは、やっぱり書店との連携が十分に可能性があると思う。書店としても、基本は人に触られたくないだろうし、宣伝効果にもなるだろうしということで提案できるかなと思ってはいた。

すでに、雑誌スポンサー制度は各図書館で導入している。予算があまりないわけだから、余計なところにはお金をかけずに、その分、本館とか分館だとかに資料を用意して、そちらに誘導しては。

あと、返却については、連携ということであれば、小学校で返却させるとか。

●細谷委員

スポンサー制は、良いアイデアだと思う。しかし、それをあまり図書館側から言うと、市長部局は、図書館はお金を生まないで、お金ばかりかかっているといたがる人が多いので、丸ごと TSUTAYA に指定管理で委託するみたいな発想が出てきたりしている。

●河村座長

全体の図書館がという発想ではなくて、都心の図書館の運営として、別のことをやったらよろしいと思っている。図書館という言葉を使わない方が良いというイメージも持っているし、サービス体系が、市民にとって図書館という言葉と一致しないかもしれない。ただの図書館ではなくて、新しい方向性の図書館ということが、よその部局との話し合いのなかでも打ち出せたら、図書館だけでは実現できなかった予算がつくだろうと、そこに複合施設としての意味があるだろうととらえている。

●細谷委員

情報センターとかそういう名前にはしないで、図書館はこういうことができるんだと、自信を持って図書館の看板を掲げて欲しい。

●河村座長

言葉のことを言っているのではなく、サービス内容・運営内容が従来の図書館と異なるということ。

●猪熊委員

資料4に、コワーキングスペースが交流の場として機能するためには、しかけが必要と書いてある。街なかのカフェやコワーキングと呼ばれているような場所と図書館は何が違うのかと考えると、図書館は本があるというのが、すでに“しかけ”なのかと思う。

今回の図書館は、課題解決型というのがすんなりくる。課題解決というのは基本的には、まちづくりと置きかえられると思う。本に会いには行くが貸出はしないとなると、貸出がない図書館になぜ行くのかと考えたとき、やっぱり人や空間に会いに行くのかなと思う。仕事をしたいと思える空間であれば、私自身は行くと思う。

自分が行く側として思うのは、知識やアイデアを本から得たい、パソコンだけじゃない、文字情報・画像として、その時に会った本から得たいと思える空間作りがすごく楽しみ。

働く図書館みたいなイメージがあって、働くというのは人が動くと書くように、やっぱり人が動いているというところが見えると、すごくすんなりいくかなと思う。

●細谷委員

一番下の運営体制が、前は20名で、今回は検討中となっている。

●千葉調整担当課長

前は数字の入ったものをお出ししたが、流動的であるため今回は検討中とした。

●細谷委員

ここで働く職員の専門性はスタート時点からかなりのレベルが要求されるので、オープンに向けての職員の採用や研修を大事にしてほしい。開館準備室みたいなものは作るのか。

●江本中央図書館長

今後作る。

●細谷委員

事業に市民が参加するだけでなく、利用者懇談会のような随時利用者の意見をフィード

バックするシステムを作り、交流の場で披露するしかけを利用者がらみで考えてほしい。

それから、一定の事業評価をする必要がある。評価システムを頭の隅においてほしい。

また、今は使わないかもしれないけど、将来を見越した基本的な設備が必要。

●豊田委員

この図書館が、持続的に札幌の街と一緒に発展していけるかどうかは、職員研修がキーになる。資料3にぜひ研修の計画を入れて欲しい。例えばレファレンスも、市民参加も、実際に展開している図書館に行って、スキルを磨いてオープニングに備えるという体制が予算や計画に組み込まれると嬉しい。

そのように職員がスキルを磨いてこそ、外注は絶対無理だと、このスキルを持った職員がこの図書館をオープンするんだという形に持っていける。

●江本中央図書館長

前回、猪熊委員から「ありがとうと感謝されるようなことが大切」とご意見をいただきましたが、そういった部分が大事だと思っている。一般の図書館にいる司書と違ったどういう資質があったら良いのかという部分で助言を頂けると嬉しい。

●細谷委員

レベルが高いというだけであって、違いはしない。優秀な司書はレファレンスインタビューがすごくうまい。レファレンスインタビューの能力やコミュニケーション能力が大事。

あと、いわゆる参考資料だけをあてにしないという柔軟性。プライベートな時間に漫然と見ていたテレビの情報がレファレンスにつながることもある。

●猪熊委員

ジュンク堂の店員さんに、今読むと良い本を教えてもらっている。欲しくないものは買わないけど、それって良い関係だなと思っている。

図書館員は売らなきゃいけないというミッションはないけれども、やっぱり伝えるというか届ける、手渡すみたいなところのゴールについては、どう思いながら日々活動されているのか。司書の目線だと、お客さんとはどういうことが最終的にゴールなのか。やっぱり本を取って欲しいとか考えているのか。

●豊田委員

今、評価システムの話があったが、図書館は貸出冊数で評価されてしまう。貸出をしないと、レファレンスの件数や顧客満足度などで目標設定をして、それに向けてしっかり考える必要があると思っている。

●豊田委員

レファレンスを受けたら、その人に最後まで責任をもたせる図書館もある。そういう場合は1か月の集計を取ると、人気のある司書とそうでない司書にもものすごい差が出る。そういう形で評価システムを行っている図書館もある。

●細谷委員

ひとりの人が対応していくと、逆に広がりがないのではないか。

●豊田委員

レファレンスレポートを残しておくことも、経験をシェアすることも重要。ただ、開館時間が長くなると、ミーティングをしてレビューしあうという時間が持ちにくくなっていく。

●河村座長

ここの図書館ですべてを解決させるレファレンスをするを考えているのか。自分のイメージとしては、ここで全部を解決しようとは思っていない。

●江本中央図書館長

資料の差もあるし、事案によって処理仕切れないものもあると思っている。一体的なレファレンスサービスを提供するなかで、中央館と連携を図っていきたい。

●河村座長

中央館や地区館に誘導したら良いのかなと思う。市外からの来訪者や観光客など、今までの非利用者が、ここをきっかけに図書館というものに目覚めてもらえるかと思っている。

●菊地委員

いわゆるオールラウンダーをベースとして研修していくのは大事。そのうえで、都心にふさわしい図書館に限らず、札幌市の図書館の司書の中にプロフェッショナルというか、ある分野については、自分はどこからどう問われても、対応できるくらいの能力を持った司書がいてもいいと思う。

全員が同じことをやるというよりは、ベースは同じとして、そこから先という意味での人材を求めていくのも良いのでは。

●河村座長

アメリカの司書だと専門を持っていて、法学部を出て法律を基礎に持っているながら図書館の司書を持っている。学部で学んだうえで、大学院で司書課程の勉強をするというのは日本と逆。でも、そういうような方向性というのは理解できる。

●豊田委員

対話力は、大学というよりは現場で学んでいくもの。企業の図書館だと、新人は横でレファレンスインタビューをチェックされている。どういう形で実現できるかわからないが、図書館の現場での訓練はすごく必要。

この人は法律関係、この人はビジネス雑誌、この人は行政資料とか、担当を持たせるのは1つのアイデアかもしれない。

●細谷委員

レファレンスインタビューの初歩は、わからないことは相談者に聞くこと。その言葉は何に出ていたのかとか、どういう目的で調べたいのかとかを聞くこと。

●豊田委員

そういうことを現場でトレーニングしてあげるトレーナーが必要だと思う。

レベルの高い図書館に行くと、いろいろカルチャーショックもあって良い経験になる。

●河村座長

レファレンスサービスコーナーが具体的にどうなっているのかが知りたい。

●根尾企画担当係長

2階にレファレンスカウンターがあり、そこである程度の仕切りを使って囲うことを想定。

●豊田委員

カウンターに座っていないで、フロアレファレンスするのかと思っていた。

●細谷委員

囲うのは反対。通りすがりにちょっと聞いてみようと思えるくらいが良い。利用者との接触はすごく有効。利用者が聞きやすい環境の中で職員が育てられる。

●河村座長

職員と分かりやすい服装が必要。

●千葉調整担当課長

僕は、このビジネスシーンに出ていくのに、エプロンというのはどうかなと思っている。

●細谷委員

私はエプロンが好き。機能的、働くことを厭わないイメージでエプロンが良い。

●豊田委員

シアトルのライブラリーの職員は、小さなマイクをつけて歩いている。常に司書がカウンターから出て本の整理をしながら、利用者に声をかける。あるいは本の整理をしていると逆に話しかけられやすい。そこでこれは専門のスタッフに対応させたほうが良いとなれば、ピンマイクを使って、レファレンスカウンターから専門のレファレンサーを呼んで、レファレンス・サービスに発展させていく。

格好良さは大事。プロフェッショナルな雰囲気ですら効率良くて、ちょっと今までと違うぞと。

●千葉調整担当課長

一人で困ったときにすぐに仲間を呼べる体制は、働くシステムとしてすごく参考になる。

●猪熊委員

頭にはなマークがあるくらい、この人に聞いてくれっていうのがわかるくらいの方が良いと思う。今まで図書館に行っていない人が来ると、レファレンスって何となるので。

●細谷委員

一定期間いろんな服装をして、利用者に投票してもらい、時間をかけて考えるのも良い。

●豊田委員

例えば千代田図書館がピンク色の服を着てコンシェルジュと呼ばせたが、あれはマスコミ受けはする。いろいろなところで紹介されて、新しい図書館が始まったと言って、それまででない利用者が行ってみようという気にさせる。だから言葉に対する違和感はあるが、今までとは違うんだとアピールする服装やネーミングはあっても良い。

●菊地委員

ネーミングは新しく募集するのか。この名前が定着するのか。

●江本中央図書館長

条例に定めることになるので、その時点で名称は決まる。

●河村座長

「ふさわしい」は要らないかも。都心図書館の方がすっきりする。

●豊田委員

公共施設だと難しいかもしれないけど、もっと個人の名前が出てきたら良い。職員のやる気やスキルアップにも繋がるし、選書に対する責任感も生じる。匿名だと質の向上は難しい。

レファレンスカウンターなんかでも自分の名前を出した方が良い。

●河村座長

それは、運用で館長先生がご指導されるんじゃないかと。

ちょっと気になっているのが、10時まで開館というのは2交代制ですよ。

●千葉調整担当課長

開館時間は一旦の仮置きで開館時間は、まだ答えが出ていない。10時から22時というだけでも2交替、朝活をやって朝8時とかになると3交替になる。

●河村座長

そろそろ時間になりますが、最後にみなさん何かないですか。

●猪熊委員

レファレンスは、イコールリサーチになると思っている。都心に住んでいる人たちが、これからどんな働き方をしていきたいとか、興味があるとか、行政的に言うとどんな街が良いのかということまでヒアリングできてしまうので、すごい重要な場所になっていく。

本の提供だけではなく、ちょっと広い目線を持った司書が必要。

この人たちと一緒にこの街を作っているんだというか、生活しているんだという意識を持ちながら、その手がかりが本だというストーリーになると思っている。レファレンスのリサーチ、情報をどう収集して、どう活用されていくのかに興味がある。

●細谷委員

おそらくホームレスの人も来ると思う。ただ単に排除するのではなくて、図書館が仲介して福祉につなげていけるようになれば。

●豊田委員

アメリカではハイスکیلガードマンという通常のガードマンの3倍のお金を払っている図書館もある。普通のガードマンだと、単純に追い出しちゃうけど、クレームを受けないように優しく話しかけて、図書館を立ち去っていただくスキルを持ったガードマン。

●細谷委員

東京の23区の図書館員の一番の悩みは、臭い。

●千葉調整担当課長

周囲に迷惑をかけない範囲で、中にいる分には追い出す理由がない。ほかの利用者から苦情があった場合には、悪いけれども周囲の方々に臭いで迷惑をかけているから、その臭いをどこかで取ってきてくれと対応している。

●河村座長

基本的には周りの人が不快に感じないということしかないですよ。

そろそろ時間になったが、基本的には前回の話がきちっと取り込まれていたということで各委員の皆さん方ご納得いただいたのではないかと。

都心にふさわしい図書館を考える懇談会はこういう方針で行くという資料にさせていただきたい。

2. 閉会

●千葉調整担当課長

今回も、委員の皆様からは、貴重なご意見をいただきありがとうございました。

今月の 22 日には、市民交流複合施設全体の検討会議が予定されており、この会議ではホールとアートセンターも含めて、管理運営基本計画について有識者の方々からご意見をいただく形になる。図書館からは私たち事務局と河村座長が出席する。

今回のご意見を踏まえて全体の検討会議に臨みたい。そしてその全体会議の意見をフィードバックする形で、9月下旬に第3回目の懇談会を開催して、この懇談会としての意見をまとめていただきたい。

---日程調整---

第3回 10月1日(水) 13:00～(研修室A)

●河村座長

では、10月1日よろしく申し上げます。今日はありがとうございました。